

〔源氏物語三十四〕みなみのおとゞの西のはなちいでにおましよそふ、屏風かべしろよりはじめ、あたらしうはらひ三十四つらはれたり。

〔源氏物語湖月抄三十四〕かべしろ 和白き衣をかたびらのやうにしてかくるもの也。

〔狭衣三〕玄やうじよりとをりて、あまたたてかさねられたる御几帳どもにつたひつゝ、かべ三ろの中に入たちて見たまへば、こなたは宮達の御かたなるべし、丁のまへにふたところふし給へり。

〔西宮記 十二月〕御佛名

頭於御前定御導師次第略 註 行事藏人催事内藏并御厨子所請 縫殿調壁

〔延喜式六〕三年一請雜物

深縹帛四疋三尺五寸四丈四尺、夏壁代紐表料、一疋 絹二百卅八疋一丈七尺九寸中略、十九疋一丈
 四丈四尺、紐裏料、五十一疋一丈二尺、調綿三百廿三屯中略、百六十屯、冬壁薪卅荷帷、直十七荷染斗帳
 冬帷料、一疋五丈二尺、紐裏料、〇中略、調綿三百廿三屯中略、百六十屯、冬壁薪卅荷帷、直十七荷染斗帳
 料、〇灰十四斛二斗、直、十斛二斗、染斗帳、苜安草八十二圍半卅一圍半、染壁代料、〇中略、紅花大六十九
 斤、六十一斤染斗帳、壁代、黃蘗大卅斤、絹斗帳、壁代帷、錢十七貫七百卅文、具、壁代十八條、帳、七條、表料、
 絹卅二疋二丈二尺、藍料、疋別三百文、七貫廿文、染、
 同裏料、淺縹絹廿五疋四丈四尺、料、疋別三百文、

〔雅亮裝束抄一〕もやのひさしのてうどたつる事

次にもやのみすをかくもやは玄んでんによりて四けん、もしは五けん、にてもあるなり、七けん、四めんの玄んでんならば、もや五けんにみすをかけて、うちにかべしろを引まはすべし、〇中か
 べしろはそのみすのたかさにつきて、四方をあげまはすべし、かべしろのおもてはみすのかた、
 にあて、かくべし、こはしのいたをいれて、まづ南より一方づゝ、あげて、よつのみすをばとぢあ、
 はせて、みすのやうにまきあげて、うちとのひもをもてあげたるまに、一むすびしてのち、とり

壁代製作